

|           |   |
|-----------|---|
| 学校目標・経営方針 | 『誠実の人となれ』の校訓のもと、自主・自立・連帯の精神と実践力を養い、社会の発展に貢献する人材を育成する。 |
|-----------|---|

|          |  |   |
|----------|--|---|
| 本年度の重点目標 | 1 農業専門高校として、「生命」「環境」「食」を育む教育を主体とし、「夢」と「志」を持ち、新しい価値の「創造」に向けて、たくましく、しなやかに未来を拓く人材を育成する。 | 達成度<br>A ほぼ達成できた。(8割以上)<br>B 概ね達成できた。(6割以上)<br>C 不十分である。(4割以上)<br>D 達成できなかった。(4割以下) |
|          | 2 学習に対する意欲と主体性、学び・わかる喜びに根ざした確かな学力を育成する   |   |
|          | 3 自らを律し、他者を思いやる心、望ましい人間関係が築ける豊かな心を育成する。  |   |
|          | 4 生涯にわたり、健康に生きる力を育成する。   |   |

|    |              |
|----|--------------|
| 評価 | 4 良くできている。   |
|    | 3 できている。     |
|    | 2 あまりできていない。 |
|    | 1 できていない。    |

| 自己評価 |           |                              | 年度末評価(令和5年 2月1日現在)   |  |  |  |   |
|------|-----------|------------------------------|--|--|--|--|---|
| 番号   | 評価項目      | 具体的方策                        | 方策の評価指標  | 自己評価結果   | 達成度  | 成果と次年度への課題・改善策   |   |
| 1    | 特色ある学校づくり | スペシャリストの育成を図るための資格取得を推進      | マイスターハイスクール事業への取組と充実<br>アグリマイスター制度の取組推進・資格取得助成制度の活用                                  | ・各学科での資格取得の取組ができたが、難易度の高い資格へのチャレンジも指導したが、結果に繋がらなかった。生徒は意欲的に資格取得挑戦し、指導と生徒の学習活動につなげることはできた。<br>・心科のデュアルシステムによる進路実現に繋がる指導ができた。<br>・農業クラブ活動の授業との繋がりを保持した取組ができた。教員側の指導体制による課題があった。<br>・先人に学ぶ事業は、花言葉大会において継続的な取組ができた。<br>・農林大学校とのカリキュラム連携科目「地域と農業Ⅱ」は、計画通りに実施でき、目標を達成できた。今後進路選択には必要である。さらに、経営的側面を学ぶため、科目「アグリビジネス」と効果的に連携させていく必要がある。 | B  | ・アグリマイスター制度では、文科省副大臣及び担当者の訪問があり、1年目の取組も2年目計画に高い評価を得た。また、農業クラブ特級申請の充実に向けた取組も強化し、計画的に資格取得できるよう指導する。<br>・専門教科の各科目の単元でのプロジェクト学習を配置し、横断的な視点で学びを深められるよう、継続した学習指導の実践を行う。<br>・先人に学ぶ事業は、継続して実施しており、本校の卒業生である俳人等への理解を深め、生徒が俳句・川柳へ積極的に取り組んだ。この俳句、川柳への取り組みを継続し、国語科とも連携を強化する中で、さらに歴史や伝統を理解することで、教育効果を高めていく。<br>・農林大学校との連携事業を進め、常に検討しながら実施する。また、その成果や課題を整理し、科目運営等について継続的に検討していく。 |   |
|      |           | キャリア教育の充実を推進するために体験的な学習を推進   | インターンシップ・デュアルシステムの実施・進路係、学年団、学科の連携強化   | ・1年生へのBYODによる「ICT活用」の授業展開に取組んだが、全体での研修を実施することで情報共有はできた。しかし、導入1年目での課題もあった。<br>・生徒への授業アンケートを実施し、全員の先生が授業のふり返りができた。さらに、教科の年間学習指導計画や評価規準の作成、ICT活用授業などで改善が必要である。<br>・新学習指導要領での3観点別評価について、特に「学びに向かう力」の評価を検討する必要がある。<br>・毎回の継続指導を必要とする家庭学習への習慣の定着については、学校評価アンケート結果により、改善に向けた取組の継続と強化が必要である。今後も保護者の協力を得られるように対応する必要がある。              | B  | ・新学習指導要領の完全実施の1年目を振り返り、「指導と評価の一体化」への取組も全教員が熟知し、授業づくりに向けて取り組む。また、課題解決に向けての研修等を実施する。<br>・日常の家庭学習の習慣化が課題であるため、保護者と連携する手立てを取る。<br>・ICT活用をした授業を行う中で、生徒が到達目標を意識し、自ら学び取る場面を作ることが必要となる。そのため、ICT研修等を実施していく。<br>・今来手帳を活用するよう取組を今後も継続していく。  |   |
|      |           | 本校の歴史・伝統を理解するために「先人に学ぶ事業」を推進 | 白磁の人読書感想文の取組推進<br>先人の生き方をとおして自己を見つめる教育の推進<br>地域の移り変わりや学校の歴史探究への取組推進<br>俳句・川柳への積極的な取組 | R4～R6年度 山梨県高等学校学力向上プロジェクト<br>未来を拓く Active School Kai Projectの推進<br>やまなしスタンダードの推進   | ・進路指導に係る対応については、きめ細かな進路指導を実施し、学校推薦の就職は、今年度も100%を達成した。このことは保護者からも評価を得ている。<br>・インターンシップは、コロナのため実施できなかったが、デュアルシステムによる専門教育が、生徒の学科に関連する進路を実現している。<br>・進路ガイダンスを含め、総合的な探究お時間を学習計画した内容とおし実施することができた。<br>・今年度は、進学者対策としての検討を行い、進路ガイダンスへの参加を促した。今後も、生徒の発達に向けた能力向上の面では、各学科行事や関連科目との横断的な視点が必要になる。 | A  | ・各学年担任による「二者懇談」を実施し、生徒と保護者が相談しやすい環境を充実させる。ニーズ等を確実に把握し、進路指導につなげる。<br>・科目「デュアルシステム」の選択を継続し、確かな動機づけを行う中で、地域に根ざした産業の育成につなげていく。また、インターンシップの実施に向けて検討する。<br>・進学者対応を新たに検討し、模試等の実施により、進学者の学力向上へ取り組む。また、進路ガイダンスへの積極的な参加による指導を行う。<br>・生徒が自ら学ぶ活動場面を設定し、探究活動に取り組む。 |
|      |           | 農林大学校や山梨学院大学との連携を推進          | 学校設定科目「地域と農業Ⅱ」「アグリビジネス」の充実・連携会議の推進   | 基礎学力の向上と家庭学習習慣の定着を図るための学習指導の開発   | 高校生のための学びの基礎診断の実施・分析<br>学習指導の開発  | ・進路指導に係る対応については、きめ細かな進路指導を実施し、学校推薦の就職は、今年度も100%を達成した。このことは保護者からも評価を得ている。<br>・インターンシップは、コロナのため実施できなかったが、デュアルシステムによる専門教育が、生徒の学科に関連する進路を実現している。<br>・進路ガイダンスを含め、総合的な探究お時間を学習計画した内容とおし実施することができた。<br>・今年度は、進学者対策としての検討を行い、進路ガイダンスへの参加を促した。今後も、生徒の発達に向けた能力向上の面では、各学科行事や関連科目との横断的な視点が必要になる。   | A   |

| 学校関係者評価          |  |
|------------------|--|
| 実施日(令和5年 2月 15日) |  |
| 評価               | 意見・要望等   |
| 4                | ・県内唯一の農業高校として、アグリマイスター制度や農林大学校とのカリキュラム連携等を積極的に推進したほか、先人に学ぶ事業では、国語・歴史等にも理解を深めさせる取組を行っており、高く評価します。<br>・各学科での資格取得の取組ができていくことは大切な部分である。難易度の高い資格へのチャレンジについてなかなか結果に繋がらなかったようだが、生徒は意欲的に資格取得に挑戦し、指導と生徒の学習活動につなげることはできたという点での大きな成果があったと思う。<br>・G科のデュアルシステムによる進路実現に繋がる指導や農業クラブ活動の授業との繋がりを保持した取組ができたということだが、ただ教員側の指導体制による課題があったというところは来年度改善できるとよい。<br>・農林大学校とのカリキュラム連携科目「地域と農業Ⅱ」は、計画通りに実施でき、目標を達成できたということでの大きな成果があったと思う。今後進路選択には必要であることから継続してほしい。さらに、経営面を学ぶため、科目「アグリビジネス」と効果的に連携させていく必要がある。<br>・自分の学科以外の生徒と交流することで、他種の資格や授業等の話ができて、他方の進学・就職に生かされていると思う。<br>・一番上の「具体的方策」である「資格取得を推進」の「評価指標」は、「資格取得助成制度の活用」であるため、難易度が高い資格が取得できなくても、評価を下げる必要はなく、資格が取得できないことを評価に反映するにしても「特色ある学校づくり」の項目の中で、未達成なのは最上部的な方策のみであることから、評価を4としたい。<br>・学校として前向きに取組んでいると思う。一方で、農業クラブ活動に対して理解がある保護者が半数程度なのは残念に思う。 |
| 3                | ・ICTの導入や授業アンケート等、生徒と双方向の授業展開に積極的に取り組んでいることを評価しております。今後も新学習指導要領完全実施への取組を継続させることを希望します。<br>・「ICT活用」導入1年目であり、成果や課題について検証し、進めていってほしい。教職員研修機会の確保等課題があると思うが、組織をあげて取り組まれることを期待する。<br>・生徒への授業アンケートを実施し、全員の先生が授業のふり返りをとおこなったことはたいへん意義のある取組であったと思う。教科の年間学習指導計画や評価規準の作成、ICT活用授業などで改善が必要とのことでの今後とも取組をお願いしたい。<br>・毎回の継続指導を必要とする家庭学習への習慣の定着については、学校評価アンケート結果により、改善に向けた取組の継続と強化が必要とのことであるので、今後も保護者の協力も含めて改善をお願いしたい。<br>・生徒の個性や能力、やる気によって理解できることと、できないところがあり、教科によって成績の差が大きい。多様なプロジェクト等は、フロンティアや東屋以外でも活用できると思います。<br>・「年度末評価」の「自己評価結果」の上から4番目「家庭学習」に「改善に向けた取組の継続と強化が必要」とあるが、「成果と次年度への課題・改善策」には「継続」はあるものの「強化」が無いので「強化方法」を記載してほしい。<br>・ICTの活用や3観点評価については、先生も課題を感じている様子。他の教育機関や企業と連携して課題解決に取り組んでほしい。   |
| 4                | ・進学、就職ともに高い実績を挙げられたと思います。今後も生徒のニーズを個別に把握しながら、地域に根ざした産業の育成につなげていくことを期待します。<br>・進路指導に係る対応については、二者懇談等きめ細かな進路指導を実施し、生徒保護者が相談しやすい雰囲気をつくることはとても大切なことだと思ふ。学校推薦の就職は、今年度も100%を達成したということでも本当に素晴らしいと思う。<br>・コロナのための制限がある中、工夫し、デュアルシステムによる専門教育が、生徒の学科に関連する進路を実現していることはとても素晴らしいと思う。<br>・進路ガイダンスを含め、進学者への対応も行い、学力向上に努めていたことはとても意義があるものだと思う。<br>・今年度は、進学者対策としての検討を行い、進路ガイダンスへの参加を促したものの一方で、今後の生徒の発達に向けた能力向上の面では、各学科行事や関連科目との横断的な視点が必要になるとの反省があるので改善をお願いしたい。<br>・各担任と話が出来、思い通りの進路に進めたと思います。進路ガイダンスの実施が良かった。実際に見て触れることで、やりたいことが膨らむと思います。この先も続けてほしいです。<br>・インターンシップは重要な取組であるため、早く再開できることを期待している。<br>・1、2年生の段階から進路を意識させる機会を増やし、生徒自身で未来を切り開く力をつけてほしい。  |
| 4                | ・前年と比較して、生徒の問題行動等に関する件数が増加しましたが、教員がより踏み込んで指導していることと表れでもあると思います。生徒や保護者の満足度も高いようですので、今後も継続して実施されるよう希望します。<br>・特別支援に関する研修を実施し、教員間での情報共有を図ることで、生徒指導上の課題等が多くなったことで、職員間の連携の必要性を強く感じたところがあるが、今後も生徒理解あつての生徒指導を念頭に継続して行ってほしい。<br>・組織として機能すること、組織で対応することの重要性を再確認し、取り組んでほしい。<br>・外部関係機関との連携も大切な要素なので、情報共有を図り、今後とも取り組んでほしい。<br>・生徒の学校評価アンケートでの高い評価は日頃からの先生方の努力の賜と感じている。今後も継続して取り組んでいきたい。<br>・新型コロナウイルス感染症防止を考えた中で、3年生は体育館での参加をする工夫した学園祭の開催を実施できた。生徒会役員を中心に主体的な活動を行った。<br>・SNSトラブルによる「いじめ」やスマホの使い方は、なかなか回避できない。学校と生徒、保護者と連携して指導をしていく必要があります。<br>・「年度末評価」の「自己評価結果」にSCやSSWの活用状況を記載したかどうか。<br>・生徒たち自身で学校をより良くしようとする意識を芽生えさせる。生徒たちがお互いに助け合える。そのような環境になっていくことを願っている。   |
| 3                | ・マナーアップ運動や5分前登校指導等は、継続することが習慣化のためには必要になると思います。地道な活動で大変だとは思いますが、次年度も継続されるよう希望します。<br>・マナーアップ運動や防災教育など様々な指導を行っていることがわかった。<br>・各学年や学科での取り組みを実施し、講演会等を通して、自己の在り方や生き方について考える機会をつくり、道徳教育につなげることができたことは大きな成果だと思ふ。<br>・交通マナーは大体守られている様だが、危ない生徒も多くなる。左側通行や、当たり前のマナーやルールを前提で運転、歩行してほしい。<br>・卒業後に、生徒たちが心も身体も健康に社会的に生活を送るため、高校生活は重要な継続した取組を期待しています。  |

※※※※ (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。